

投資の基礎講座 「個人向け国債？新窓販国債？」

一般の人が買える日本の国債には、「個人向け国債変動10年」「個人向け国債固定5年」の他に、新窓販国債として、2年、5年、10年の固定金利のものがありません。「新窓販国債」は、「個人向け」となっていないまでも、比較的購入しやすい国債です。

「個人向け国債」と「新窓販国債」の大きな違いは、まず、個人向け国債が額面1万円単位で額面で発行され、変動10年は発行後1年経過後は額面金額で換金でき（過去2回分の非課税の利息相当額が手数料として差引かれます）、金利が半年ごとに見直されること、固定5年は発行後2年経過後は額面金額で換金できる（過去4回分の非課税の利息相当額が手数料として差引かれます）こと（金利は固定）です。一方、新窓販国債は、額面5万円単位で、発行時の金額が必ずしも額面金額とは限らないこと、いつでも換金できますが、換金時の金利水準により市場価格で売買されるため、価格が変動することです。

現在募集中（平成20年6月9日現在）のものは、「個人向け国債変動10年」「個人向け国債固定5年」「新窓販国債2年」「新窓販国債10年」（5年は6月13日から募集開始の予定）です。変動10年の初回金利（平成21年1月15日利払い）は1.00%、固定5年の利率は1.22%、窓販2年は0.90%、窓販10年は1.80%となっています。

中途換金の予定がなければ、安定した運用手段として国債を選択肢に入れてもいいと思います。金利水準や運用期間、これからの金利見通しを考えて自分に合った物を選びましょう。

先週の金融市場データ

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	14,440.14円	14,489.44円	14,209.17円	14,489.44円
TOPIX	1,425.10	1,430.47	1,407.44	1,428.11
ニューヨークダウ平均	12,503.82ドル	12,604.45ドル	12,209.81ドル	12,209.81ドル
NASDAQ	2,491.53	2,549.94	2,474.56	2,474.56
10年国債利回り	1.750%	1.795%	1.710%	1.795%
5年国債利回り	1.370%	1.370%	1.255%	1.360%
無担保コールO/N	0.533%	0.533%	0.496%	0.496%
米国FFレート	1.8750%	2.0000%	1.8750%	2.0000%
米国10年国債利回り	3.96%	4.04%	3.89%	3.91%
ドイツ10年国債利回り	4.34%	4.49%	4.34%	4.41%
ドル/円相場	105.08円	106.03円	104.24円	106.03円
ユーロ/円相場	163.17円	165.36円	161.96円	165.36円
1ユーロ=ドル	1.5528ドル	1.5595ドル	1.5437ドル	1.5595ドル
豪ドル/円相場	100.60円	101.96円	99.66円	101.96円
NY原油先物(WTI)	127.76ドル	137.54ドル	122.30ドル	137.54ドル
NY金先物	897.00ドル	899.00ドル	875.50ドル	899.00ドル

スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成20年6月9日現在

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
東和銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
高崎信用金庫	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
郵便局	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%

景気動向指数

6月9日に4月の景気動向指数が内閣府から発表されます。今回から、従来のDI(ディフュージョン・インデックス)を中心としたものから、CI(コンボジット・インデックス)を中心とした景気動向指数に移行します。

DIは採用系列の各月の値を3か月前の値と比較して、増加した時には+を、保合の時には0を、減少した時には-をつけ、+の数の割合(%)をDIで表します。50%ラインを上回るか、下回るかで景気が上向きか、下向きかを判断します。DIの水準自体は景気水準を表しているわけではありません。

一方、CIは景気に敏感な指標の量的な動きを合成した指標であり、主として景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としています。CIも先行、一致、遅行の3つの指数があります。CIでは、一般に、一致指数が上昇している時が景気の拡張局面、低下している時が後退局面とみます。また、変化の大きさが景気の拡張または後退のテンポを表しており、その時々々の景気量感を観察することができるわれています。月々のCIの変動が大きいことから3ヶ月移動平均などで見るほうがよいようです。

今週の株式相場見通し

先週の株式相場は、原油価格の乱高下、米金融不安の再燃などの影響を受け値動きの荒い展開となりましたが、為替相場が円安となったことから徐々に下値を切り上げました。

今週の株式相場は、先週末の米株式相場が失業率の大幅上昇、原油の高騰などにより急落したことを受け、大幅下落が始まり、軟調な展開が予想されます。原油価格が再び最高値を更新したこと、米景気の先行きに悲観論が強まりドル安となりそうなどから、利益確定の売りやヘッジ売りなどを誘い、日経平均株価は13800円程度まで下落する場面もありそうです。

一方で、原油価格の急騰後の反落も予想され、引き続き値動きの荒い展開ながらも上昇トレンドに変化はないと思われることから、仮に日経平均株価が14000円を割り込んで一時的なもので終わりそうです。

円高反転で輸出関連株は売り物に押されるものが増えそうです。

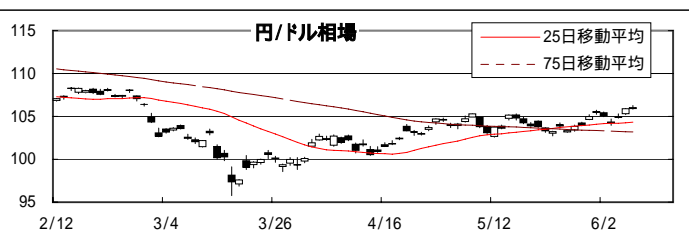
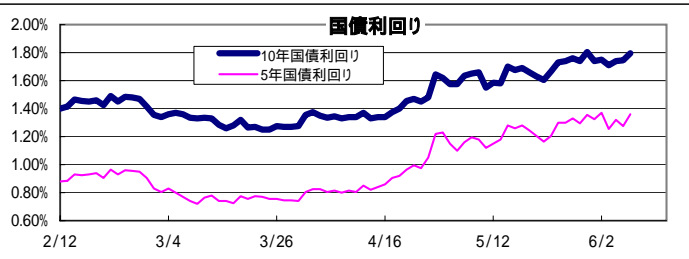
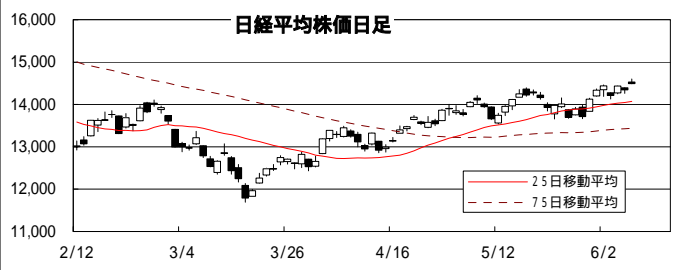
今週の債券・為替相場見通し

先週の債券相場は、米金融不安の再燃から10年国債利回りが1.695%まで下がる場面もありましたが、インフレ懸念や円安もあり1.805%まで上昇するなど値動きの荒い展開となりました。

今週の債券相場は、先週末の金利上昇の反動や株安などにより金利低下が見込まれます。10年国債利回りで1.65%程度まで低下する場面もありそうです。しかし、原油価格の高騰などインフレ懸念も根強く値動きの荒い展開が続くものと思われます。10年国債利回りで1.65~1.80%程度の推移となりそうです。

先週の為替相場は、一時期マン・ブラザーズの赤字転落観測からドル売りが加速しドル=104円近くまで円高・ドル安が進みましたが、米金利引下げの打ち止め観測や資源国通貨の上昇に一服感が出てきたことなどからドル買いの動きが強まりドル=106円台までドル高・円安が進みました。

今週の為替相場は、米景気への不安感が台頭しドル独歩安の展開が予想されます。1ドル102円80銭~105円程度の推移となりそうです。



本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したものであり、その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。